



Sun™ Management Center 3.5 バージョン 6 Sun Fire™ ハイエンドシステム ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-4005-11
2005 年 8 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品のの一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Java、AnswerBook2、docs.sun.com、Sun Fire、および Sun Management Center は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されず。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Management Center 3.5 Version 6 Release Notes for Sun Fire High-End Systems Part No: 819-0793-12 Revision A
-----	---



目次

このリリースでの新機能	1
サポートされるシステムと環境	2
推奨パッチ	3
アドオンソフトウェアの入手	4
マニュアル	5
判明している制限事項	5
CLI コマンドを使用したホットスワップ操作	5
ドメイン構成リーダーの SAN に接続されたテープドライブの Veritas Netbackup SSO に対する非互換性	6
PDSM が必要とする詳細なエラーメッセージ	6
判明している問題点	6
アラームテーブルのセンタープレーンバスアラームが更新されない	7
使用不可のシステムボードを取り外したときにアラームテーブルが更新されない	7
アラームを確認済みにすると、コンソールが「ハングアップ」する	7
DIMM スロットが空き状態で DR 操作を行うと、誤ったアラームが生成される	7
ドメイン構成リーダーによって誤ったプロセッサタイプが表示されることがある	8
SMS の CLI の addboard 使用後、プラットフォーム表示の更新に時間がかかる	8

PDSM 操作後、ハードウェアの概要表示にシステム情報がない 8

Sun Management Center 3.5 バージョン 6 Sun Fire ハイエンドシ ステムご使用にあたって

この文書では、Sun Fire ハイエンドシステム用 Sun Management Center 3.5 バージョン 6 ソフトウェアの最新情報を提供します。この文書は、『Sun Management Center 3.5 バージョン 6 Sun Fire ハイエンドシステムのための追補マニュアル』を追補します。次の項目があります。

- 1 ページの「このリリースでの新機能」
- 2 ページの「サポートされるシステムと環境」
- 3 ページの「推奨パッチ」
- 4 ページの「アドオンソフトウェアの入手」
- 5 ページの「マニュアル」
- 5 ページの「判明している制限事項」
- 6 ページの「判明している問題点」

このリリースでの新機能

この節では、Sun Fire ハイエンドシステム用 Sun Management Center 3.5 バージョン 4 ソフトウェアと Sun Management Center 3.5 バージョン 6 アドオンソフトウェア (本リリース) との間の Sun Fire ハイエンドシステムソフトウェア用アドオンコンポーネントの変更点について説明します。

- System Management Services (SMS) 1.5 のサポートを追加。
- UltraSPARC® IV に CPU/メモリーボードを持つシステムのサポートを追加。

サポートされるシステムと環境

Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 バージョン 6 ソフトウェアは、次のシステムに対応しています。

- Sun Fire E25K/E20K
- Sun Fire 15K/12K

表 1 は、本リリースで Sun Fire ハイエンドシステムをサポートするのに必要なソフトウェアバージョンの一覧です。

注 – 本リリースで動的再構成 (DR) を使用する場合は、Sun Fire ハイエンドシステムおよびミッドレンジシステム用の DR アドオンコンポーネントをインストールする必要があります。以前のバージョンの DR アドオンがシステムにすでにインストールされている場合でも、この新しいバージョンをインストールする必要があります。

表 1 ソフトウェアバージョン最低要件

ホスト	必要なソフトウェア	バージョン
サーバーマシン	Solaris ¹ オペレーティングシステム	8 2/04 9 9/04 10
	Sun Management Center サーバーベースソフトウェア	
	Solaris 8 または 9 の場合	3.5 Update 1
	Solaris 10 の場合	3.5 Update 1b + パッチ 18389-07
	Sun Fire ハイエンドシステム用 Sun Management Center アドオンソフトウェア	3.5 バージョン 6
システムコントローラ	Solaris ¹ オペレーティングシステム	8 2/04 9 9/04
	System Management Services (SMS)	1.4.1
	Sun Management Center ベースソフトウェア	3.5 Update 1
	Sun Fire ハイエンドシステム用 Sun Management Center アドオンソフトウェア	3.5 バージョン 6
Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン	Solaris ¹ オペレーティングシステム	8 2/04 9 9/04 10

表 1 ソフトウェアバージョン最低要件 (続き)

ホスト	必要なソフトウェア	バージョン
	Sun Management Center ベースソフトウェア	
	Solaris 8 または 9 の場合	3.5 Update 1
	Solaris 10 の場合	3.5 Update 1b + パッチ 18389-07
	Sun Fire ハイエンドシステム用 Sun Management Center アドオンソフトウェア	3.5 バージョン 6
ワークステーション (コンソール階層用)	Solaris ¹ オペレーティングシステム	2.6, 7, 8, 9, 10
	Sun Management Center コンソールベースソフトウェア	3.5 Update 1
	Solaris 10 の場合	3.5 Update 1b + パッチ 18389-07

1 Solaris オペレーティングシステムは、少なくとも「End User Systems Support」のディストリビューションである必要があります。

推奨パッチ

注 – Solaris 10 には、Sun Management Center パッチ 118389-07 が必須です。他のリリースの Solaris にも、このパッチの使用を推奨します。

s10u1_b8 よりも古いバージョンの Solaris 10 には、次の Solaris パッチの使用を推奨します。

- 119974-01
- 120182-01

必ず最新バージョンのパッチを使用してください。上記以外にも、Sun Management Center 3.5 アプリケーション用にパッチが提供されていることがあります。Sun Management Center 3.5 ソフトウェアの最新のアップデートとこのアドオンをインストールする前に、ご使用のオペレーティング環境に必要なすべてのパッチをインストールしておく必要があります。

Sun とサービス契約を結んでいる場合は、次の Web サイトからパッチをダウンロードできます。

<http://sunsolve.sun.com>

Sun Management Center 製品の Web サイトからパッチをダウンロードすることもできます。

<http://www.sun.com/sunmanagementcenter>

Sun Management Center 3.5 の最新アップデートに必要なパッチについての詳細は、対応する Sun Management Center ソフトウェアの『ご使用にあたって』を参照してください。

アドオンソフトウェアの入手

Sun Fire ハイエンドシステム用 Sun Management Center 3.5 バージョン 6 アドオンソフトウェアのパッケージは、次の名前の zip ファイルで提供されています。

Sun_MC-3_5_Addon_V6-GA.zip

このファイルは、次のソフトウェアダウンロードサイトにあります。

<http://www.sun.com/software/download/index.html>

「New Downloads」欄に Sun Management Center 3.5 Version 6 のリストがない場合は、次のようにしてください。

1. 「A-Z Index of All Products」をクリックします。
2. 「M」をクリックします。
3. 下方向にスクロールし、「Management Center 3.5 Version 6」をクリックします。
4. 「Download」をクリックします。
5. 「Download Center」にログインします。
6. 「Accept」をクリックしてライセンス条項に同意し、「Continue」をクリックします。
7. ダウンロードページの指示にしたがって操作します。

マニュアル

Sun Fire ハイエンドシステム用 Sun Management Center 3.5 バージョン 6 の使用に関する詳細は、『Sun Management Center 3.5 バージョン 6 Sun Fire ハイエンドシステムのための追補マニュアル』をお読みください。関連するマニュアルについては、このマニュアルの「はじめに」を参照してください。バージョン 6 リリース用のこのマニュアルに対する変更点については、次節を参照してください。

Sun のマニュアルは、この URL にあります。

<http://www.sun.com/documentation/>

判明している制限事項

System Management Services (SMS) の動作、または動的再構成 (DR) 操作に関してすでに判明している制限事項は、以下のマニュアルに記載されています。

- 『System Management Services (SMS) ご使用にあたって』
- 『Solaris Sun ハードウェアマニュアル (補足)』 (使用している Solaris のバージョンのもの)

これらの文書には、Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 バージョン 6 アドオンソフトウェアの本リリースに影響がある可能性がある、すでに判明している制限事項が記載されています。

CLI コマンドを使用したホットスワップ操作

ホットスワップ操作には、Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 バージョン 6 アドオンソフトウェアではなく、コマンド行インタフェース (CLI) を使用してください。Sun Fire ハイエンドシステムでのホットスワップ操作についての詳細は、最新の『Sun Fire High-End and Midrange Systems Dynamic Reconfiguration User's Guide』および Sun Fire システムのご使用のモデルのサービスマニュアルを参照してください。

ドメイン構成リーダーの SAN に接続されたテープドライブの Veritas Netbackup SSO に対する非互換性

使用するテープドライブが、ストレージエリアネットワーク (SAN) に接続されていない場合、この問題による影響はありません。

SAN に接続され、Veritas Netbackup SSO によって使用されている StorageTek テープドライブについては、Sun Management Center 3.5 Sun Fire ハイエンドシステム構成リーダーはその実装に対する互換性はありません。ドメイン構成リーダーは、そのデバイスの状態や位置を変更するコマンドを実行しません。しかし、そのテープデバイスはローカルに接続されるデバイスではなく、SAN に接続されているため、SCSI がリセットされます。この問題の原因は、2 つの個別のホストの両方が、一度にオープンされる複数のデバイスを持つ可能性があることに起因しています。

回避策: この問題が発生した場合には、Sun のサービス担当に連絡してください。

PDSM が必要とする詳細なエラーメッセージ

PDSM (Platform/Domain State Management) モジュールは、そのエラーメッセージに、不具合の内容とエラー原因を記述する必要があります。

回避策: PDSM モジュールで作業しているときにエラーが表示された場合に、下記のログファイルを参照して動作状態を確認してください。

- /var/opt/SUNWsymon/log/pdsm.log または platform.log
- /tmp/pdsm.log
- コンソールログファイル
- /var/opt/SUNWsmw/sms のバージョン/adm/platform/messages。ここで、SMS のバージョンは、SMS1.4.1 など動作している SMS のバージョンです。

判明している問題点

この節では、本リリースの時点ですでに判明し、注意を必要とするソフトウェアのバグ、また Sun Fire ハイエンドシステム用 Sun Management Center 3.5 バージョン 6 ソフトウェアの動作に影響を及ぼす可能性のあるソフトウェアのバグについて記載します。

アラームテーブルのセンタープレーンバスアラームが更新されない

センタープレーンのバスモードを変更した後、アラームテーブルに更新されたアラームが表示されないことがあります。2つあるセンタープレーンサポートボード (CSB) の一方が縮退していて、他方が動作している場合、アラームテーブルには適切なアラームが表示されます。縮退していた CSB を動作モードに戻し、他方の CSB を縮退させると、更新されたアラーム情報が表示されません。

回避策: ドメインテーブルで適切なバス構成情報を参照してください。

[6248158]

使用不可のシステムボードを取り外したときにアラームテーブルが更新されない

状態が「degraded」または「offline」のプロセッサは、それに対応するアラームを生成し、このアラームは、アラームテーブルとプロセッサテーブルの両方で確認できます。システムボードを取り外すと、プロセッサテーブルにアラームが表示されなくなりますが、アラームテーブルには表示が残ります。これは誤りです。[6249010, 6248755]

アラームを確認済みにすると、コンソールが「ハングアップ」する

ドメインコンソールのアラームテーブルでアラームを確認済みにすると、コンソールが「ハングアップ」し、砂時計マウスアイコンが長時間表示されたままになります。[6248876]

DIMM スロットが空き状態で DR 操作を行うと、誤ったアラームが生成される

動的再構成 (DR) を使用して、メモリーバンク 1 の空きメモリースロットを含むシステムボードをいったん削除し、追加し直すと、メモリーバンクおよび DIMM テーブルの POST の状態のプロパティに「DISABLED」値が表示されます。DR 操作によって構成が変更されていない場合でも、黄色い注意アラームが生成されます。このアラームは誤りです。[6252214]

ドメイン構成リーダーによって誤ったプロセッサタイプが表示されることがある

ドメイン構成リーダー (DCR) によって、UltraSPARC-III++ プロセッサが UltraSPARC-III+ と表示されます。

回避策: プラットフォーム構成リーダー (PCR) または SMS の `showboards` コマンドを使用して、適切な UltraSPARC-III++ プロセッサタイプが表示されるようにしてください。

[6283373]

SMS の CLI の `addboard` 使用後、プラットフォーム表示の更新に時間がかかる

System Management Services (SMS) でコマンド行インタフェース (CLI) から `addboard` 操作を行った後、対応する Sun Management Center のプラットフォーム表示の更新に 10 分かかることがあります。

回避策: プラットフォーム表示の更新に最大 10 分を割り当ててください。

[4997917]

PDSM 操作後、ハードウェアの概要表示にシステム情報がない

PDSM 操作を行った後、ハードウェアの概要を表示すると、システム情報が表示されないことがあります。

回避策: 「詳細」 ウィンドウをいったん閉じて、再表示してください。ハードウェアの概要表示に最新のシステム情報が表示されます。

[5029899]